

◆ 2021 年度 活動 報告 シ ー ト ◆

団体名：黒目川の景観を考える会

24A-18

代表者：代表 小林 一己

URL :

1. 活動が必要とされた状況

黒目川河畔の民地に植樹したサクラ7本について、地主から剪定要請があり、2021年冬に友好団体の支援で何とか剪定を行ったが、自前での体制確立が課題となった。

樹木剪定研修を行い、市民の樹木剪定スキルを向上させ、民地の緑地保全、ひいては黒目川河畔林のメンテサポーター育成を目指す。



2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）



・7月17日第1回「木を育てる研修会」座学 朝霞市中央公民館 参加20人

堂本泰章氏（埼玉県生態系保護協会）を講師に、黒目川の木を育てる活動が、生物多様性の保全の中で取り組むべきことを学んだ。

・9月19日第2回「木を育てる研修会」視察 江戸川区葛飾区 参加9人

千田 稔氏・木山 政孝氏（泉翠株）を講師に、江戸川区の先進的街路樹剪定の事例を現地で学んだ。強剪定と自然風剪定の違いを考える機会となった。

・10月17日第3回「木を育てる研修会」座学 朝霞市リサイクルプラザ 参加17人
千田 稔氏を講師に、木の「自然風剪定」を本格的に学んだ。

・11月14日第4回「木を育てる研修会」実習 黒目川水道橋ミニパーク 参加10人
千田 稔氏・木山政孝氏（泉翠株）を講師に、黒目川河畔林のサクラを題材に「自然風剪定」を実習。

3. 活動の成果

第1回研修会で、COP10・愛知ターゲットで、生物多様性の回復、保全が定められたこと、2015年国の国土形成計画（自然の機能を活かした地域づくりへの転換）で、グリーンインフラ、生態系ネットワーク形成がうたわれ、当会の活動もこの新しい流れに沿うべき事を学んだ。

第3回研修（座学）で「自然風剪定」を学んだ。街路樹で見かける一律剪定・強剪定に疑問を持っていた参加者にとっては、目指すべき剪定はこれだと発見した研修となった。

第2回研修は剪定事例の視察、第4回研修は自然風剪定の実習。第2回研修での先進的江戸川区の剪定事例が、第3回研修で学んだ「自然風剪定」であり、第4回研修では、サクラを題材にその「自然風剪定」実習で学ぶことができ、当会の活動の転換点の研修だった。



4. 今後に残された課題

緑地保全には、生態系、生物多様性、グリーンインフラの枠で取り組む必要性を理解したが、普段の活動では考慮していなかったため、今後の活動で深化させる必要がある。

また、自然風剪定は、初めて取り組んだ分野であり、今後の経験・蓄積が必要である。

21年度研修では、参加者のうち3分1が市外在住者で、今後の地元活躍が見込める市内在住者も、これまでの当会の活動参加者の範囲内である。

この運動の新たな参加者、外部への広がりには、2~3年は要するものとする。